

日本語教育学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本語教育学特論Ⅰ	言語理解学習過程	2	小河原 義朗	2学期	火	2	1	日本語教育論特論Ⅰ
日本語教育学特論Ⅱ	日本語学習と社会文化理論	2	島崎 薫	1学期	火	2	2	日本語教育論特論Ⅱ
日本語教育学特論Ⅲ	接触場面のコミュニケーションを分析する	2	柳田 直美	集中(2学期)			3	日本語教育論特論Ⅲ
日本語教育学総合演習Ⅰ	課題研究Ⅰ	2	小河原 義朗、島崎 薫	1学期	水	5	4	対応科目なし
日本語教育学総合演習Ⅱ	課題研究Ⅱ	2	小河原 義朗、島崎 薫	2学期	水	5	5	対応科目なし
日本語教育方法論研究演習Ⅰ	異文化コミュニケーション	2	島崎 薫	1学期	火	4	6	日本語教育論講読
日本語教育方法論研究演習Ⅱ	言語技能と教育	2	小河原 義朗	1学期	金	3	7	対応科目なし
日本語教育方法論研究演習Ⅲ	日本語学習におけるITのインパクト	2	難波 康治	集中(1学期)			8	対応科目なし
日本語教育学研究演習Ⅰ	地域日本語支援	2	島崎 薫	2学期	月	2	9	日本語教育論研究演習 Ⅰ
日本語教育学研究演習Ⅱ	第二言語習得研究	2	小河原 義朗	1学期	月	2	10	日本語教育論研究演習 Ⅱ
日本語教育学研究実習Ⅰ	プログラムをデザインする	2	島崎 薫、小河原 義朗	1学期	月	3・4	11	日本語教育論実習Ⅰ
日本語教育学研究実習Ⅱ	プログラムを運営し、評価する	2	島崎 薫、小河原 義朗	2学期	月	3・4	12	日本語教育論実習Ⅱ

科目名：日本語教育学特論Ⅰ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 火曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LM22203， 科目ナンバリング：LJS-LIN615J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 日本語教育論特論Ⅰ 】

1. 授業題目：

言語理解学習過程

2. Course Title（授業題目）：

The process of Language learning and understanding

3. 授業の目的と概要：

人がことばを理解し学習するとはどういうことなのか、その様々な考え方や理論について理解を深める。その上で、聴解または読解の教材を分析し、教材案を作成し、模擬授業を実施して授業分析をすることによって、教育方法や学習方法の改善につなげる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 言語の理解・学習過程についての理論的な背景を理解し、説明できる。
- (2) 理論的な背景を踏まえて、教材を分析・作成し、実践に結び付けることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：言語の学習とは
- 第3回：言語理解学習のメカニズム
- 第4回：言語の記憶・処理過程
- 第5回：言語の理解・産出過程
- 第6回：学習科学
- 第7回：教材分析（聴解）
- 第8回：教材作成（聴解）
- 第9回：模擬授業（聴解）
- 第10回：授業分析（聴解）
- 第11回：教材分析（読解）
- 第12回：教材作成（読解）
- 第13回：模擬授業（読解）
- 第14回：授業分析（読解）
- 第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%、授業参加度 30%、授業課題 40%

7. 教科書および参考書：

卯城祐司(2009)『英語リーディングの科学』研究社

8. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：なし

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学特論Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：島崎 薫（准教授）

講義コード：LM12203， 科目ナンバリング：LJS-LIN616J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 日本語教育論特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

日本語学習と社会文化理論

2. Course Title（授業題目）：

Japanese Language Learning and Sociocultural Theory

3. 授業の目的と概要：

この授業では、社会文化理論を中心とした社会とのやりとりでの日本語学習者・使用者の学びに関する理論を学ぶ。そしてそれらの理論を使い、プログラムや活動をデザインしたり、実践を分析したりすることができるようになることを目指す。

4. 学習の到達目標：

- ・ 社会文化理論について理解し、説明することができる
- ・ 状況的学習、実践コミュニティ、越境、拡張的学習に関して理解をし、説明することができる
- ・ それらの理論を使って、プログラムや活動をデザインしたり、実践を説明・分析したりすることができる

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：社会文化理論とは
- 第3回：状況的学習
- 第4回：実践コミュニティ（理論）
- 第5回：実践コミュニティ（実践研究①）
- 第6回：実践コミュニティ（実践研究②）
- 第7回：越境（理論）
- 第8回：越境（実践研究①）
- 第9回：越境（実践研究②）
- 第10回：拡張的学習（理論）
- 第11回：拡張的学習（実践研究①）
- 第12回：拡張的学習（実践研究②）
- 第13回：グループ活動①
- 第14回：グループ活動②
- 第15回：グループ発表、まとめ

6. 成績評価方法：

ディスカッションへの貢献 40%、グループ発表 20%、最終レポート 40%

7. 教科書および参考書：

授業内で説明します。

8. 授業時間外学習：

読み物を読み、ディスカッションの準備や、グループ活動での発表準備を授業外の時間にする必要があります。

9. その他：なし

科目名：日本語教育学特論Ⅲ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

学期：集中(2学期)、 単位数：2

担当教員：柳田 直美（非常勤講師）

講義コード：LM98806、 科目ナンバリング：LJS-LIN617J、 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本語教育論特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

接触場面のコミュニケーションを分析する

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Interaction in Contact Situations

3. 授業の目的と概要：

母語話者と非母語話者のコミュニケーション場面を「接触場面」と呼ぶ。ここでは母語話者同士の「母語場面」とは異なるコミュニケーションの様相が示される。本科目では、接触場面のコミュニケーションを分析するための基礎知識を学び、接触場面のコミュニケーションを分析・発表し、ディスカッションを行う。

4. 学習の到達目標：

1. 接触場面のコミュニケーションの特徴を知る
2. 談話分析の基礎を理解する
3. 接触場面のコミュニケーションの分析ができる
4. 接触場面のコミュニケーションを分析し、共有する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション／接触場面とは何か
2. 接触場面のコミュニケーションの特徴①
3. 接触場面のコミュニケーションの特徴②
4. 談話研究における研究倫理
5. 談話分析の基礎①文字起こしの方法
6. 談話分析の基礎②録音・録画
7. 談話分析の基礎③文字起こし
8. 談話分析の基礎④分析
9. 接触場面のコミュニケーションを分析する①分析の観点
10. 接触場面のコミュニケーションを分析する②分析手法
11. 接触場面のコミュニケーションを分析する③量的分析
12. 接触場面のコミュニケーションを分析する④質的分析
13. 発表・ディスカッション①
14. 発表・ディスカッション②
15. ふりかえり

6. 成績評価方法：

出席を含む授業態度 50%、期末レポート 50%。
3回以上欠席した場合、単位は取得できない。

7. 教科書および参考書：

参考書

デボラ・カメロン著・林宅男監訳『話し言葉の談話分析』ひつじ書房

中井陽子編著（2017）『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がり軌跡—研究から実践まで』ナカニシヤ出版
J. V. ネウストプニー・宮崎里司共編著（2002）『言語研究の方法—言語学・日本語学・日本語教育学に携わる人のために』くろしお出版

宮崎里司／ヘレン・マリ奥特編『接触場面と日本語教育—ネウストプニーのインパクト』明治書院

柳田直美『接触場面における母語話者のコミュニケーション方略—情報やりとり方略の学習に着目して』ココ出版

8. 授業時間外学習：

毎回の授業内容についての復習、および次回の予習をしてきてください。

9. その他：なし

- ・接触場面のコミュニケーションに興味がある方、これから談話分析をしたいと思っている方、談話分析を基礎から学びたい方を歓迎します。
- ・出席と積極的な参加を重視します。

科目名：日本語教育学総合演習Ⅰ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗、島崎 薫（教授、准教授）

講義コード：LM13502， 科目ナンバリング：LJS-LIN618J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

課題研究Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：

Topic Research 1

3. 授業の目的と概要：

大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. 学習の到達目標：

参加者相互の研究発表を通じて、

- (1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。
- (2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。
- (3) 各自の研究を着実に進めることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）

第9回：修士課程2年生による結果報告

第10回：修士課程2年生による分析報告

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）

6. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

9. その他：なし

科目名：日本語教育学総合演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Integration Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗、島崎 薫（教授、准教授）

講義コード：LM23502， 科目ナンバリング：LJS-LIN619J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

課題研究Ⅱ

2. Course Title（授業題目）：

Topic Research 2

3. 授業の目的と概要：

大学院生・大学院研究生全員が参加し、各自の研究テーマについて研究計画・進捗状況・結果報告をプレゼンテーションし、教員を含む参加者全員でディスカッション・フィードバックを行う。

4. 学習の到達目標：

参加者相互の研究発表を通じて、

- (1) 様々な研究テーマに応じた日本語教育学研究法について学び、適切な選択ができる。
- (2) 聞き手に配慮したプレゼンテーション・質疑応答・ディスカッションができる。
- (3) 各自の研究を着実に進めることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：修士課程2年生による進捗状況報告（課題）とディスカッション

第3回：修士課程2年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第4回：修士課程1年生による研究計画報告（背景）とディスカッション

第5回：修士課程1年生による研究計画報告（課題）とディスカッション

第6回：博士課程院生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第7回：博士課程院生によるプレゼンテーション（進捗状況）とディスカッション

第8回：大学院研究生によるプレゼンテーション（研究計画）とディスカッション

第9回：修士課程2年生による結果報告とディスカッション

第10回：修士課程2年生による分析報告とディスカッション

第11回：修士課程1年生による進捗状況報告（目的）とディスカッション

第12回：修士課程1年生による進捗状況報告（先行研究）とディスカッション

第13回：博士課程院生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

第14回：博士課程院生によるプレゼンテーション（分析報告）とディスカッション

第15回：大学院研究生によるプレゼンテーション（結果報告）とディスカッション

6. 成績評価方法：

プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）、授業参加度（40%）

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

発表担当者は、自分の発表に向けて各自パワーポイント・ハンドアウトの資料作成準備を進める。

9. その他：なし

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅰ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：島崎 薫（准教授）

講義コード：LM12402， 科目ナンバリング：LJS-LIN620J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語教育論講読 】

1. 授業題目：

異文化コミュニケーション

2. Course Title (授業題目)：

Cross Cultural Communication

3. 授業の目的と概要：

異文化コミュニケーションや文化適応に纏わる様々な社会の問題や現状について理解を深めると同時に、課題を見極め、解決方法を検討する活動を通して、自らの主張を発表し、レポートとしてまとめる。

4. 学習の到達目標：

- ・ 自分と異なる世界の見方や考え方に会うことから生じる問題について、それを避けるのではなく、積極的に関わる姿勢・態度を身に付ける。
- ・ その関わりを通してそこにある違いや問題の所在を的確に分析し判断することができる。
- ・ その問題を解決するために、説得力のある主張をもって発信することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション、「異文化」を体験する

第2回：文化とは何か？

第3回：異文化適応

第4回：コミュニケーションとは何か

第5回：言語コミュニケーション

第6回：非言語コミュニケーション

第7回：ライフストーリーインタビュー

第8回：インタビューの仕方、インタビュー準備

第9回：インタビュー準備、インタビュー練習

第10回：書き起こし

第11回：分析①

第12回：分析②

第13回：分析③

第14回：発表

第15回：振り返り・まとめ

6. 成績評価方法：

最終発表 30%、最終レポート 30%、授業への参加態度 40%

7. 教科書および参考書：

授業内で適宜配布します。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅱ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LM15301， 科目ナンバリング：LJS-LIN621J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし 】

1. 授業題目：

言語技能と教育

2. Course Title (授業題目)：

Language skills and Teaching

3. 授業の目的と概要：

学習者が話す、または書くことができるようになるためには、何が必要で、教師は何をすべきなのか、話し言葉・書き言葉の教育の内容と方法について考える。まず、話し言葉、または書き言葉の特徴について分析的に概観しつつ、学習者が日本語で話す、または書く可能性のある場面と、その場面でのコミュニケーション行動をリストアップし、その行動で必要となる学習項目を抽出する。そして、そのための様々な学習活動を考え、教材を作成し、評価する。

4. 学習の到達目標：

- (1) 話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動のバリエーションとその特徴を理解し、説明できる。
- (2) 目的に応じて話す、または書くことを教えるためのシラバス・教室活動を考え、教材を作り、評価することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：コミュニケーション活動の実際1
- 第3回：コミュニケーション活動の実際2
- 第4回：会話・作文の分析1
- 第5回：シラバスの検討1
- 第6回：教室活動の検討1
- 第7回：会話・作文の分析2
- 第8回：シラバスの検討2
- 第9回：教室活動の検討2
- 第10回：会話・作文の分析3
- 第11回：シラバスの検討3
- 第12回：教室活動の検討3
- 第13回：フィードバックと評価1
- 第14回：フィードバックと評価2
- 第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

8. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：なし

3回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育方法論研究演習Ⅲ／ Methodologies in Japanese Language Teaching(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1学期)， 単位数：2

担当教員：難波 康治（非常勤講師）

講義コード：LM98807， 科目ナンバリング：LJS-LIN622J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 対応科目なし】

1. 授業題目：

日本語学習における IT のインパクト

2. Course Title (授業題目)：

How is Information Technology changing Japanese language learning?

3. 授業の目的と概要：

現在、私たちは SNS などを通して個人が常に繋がっているという「情報」社会に生きている。情報通信技術の発達によって、手軽にマルチメディアコンテンツをやりとりできるようになり、また、モバイル端末はそれらのコンテンツへいつでもどこでもアクセスすることを可能にした。それらは、プログラムやコースのような教材としてだけではなく、動画、テキスト、音声などのリソースとしてウェブ上に存在しているように見える。また、それらは、単に所与のものとして存在するだけでなく、ユーザーとしての自分が制作者としてアップロードすることもありうる。

一方、このようなリソースを自在に利用して、自学自習で非常に高い能力を身につける日本語学習者も増えつつある。これは、新しい技術によって学習のあり方自体が変わりつつあることを示している。

さらに、近年では、情報通信の次の波と言われる AR（拡張現実）や VR（仮想現実）などの技術を応用した新しい体験が提供されつつある。

本講義では、これら、これまで日本語教育ではあまり採用されることのなかった、情報通信技術について、それらをどのように理解し、活用するかを主な課題とする。授業は、講義や講読だけではなく、実際にグループでの共同作業を通して、オンラインとリアルを繋ぐという、新しい学習（支援）システムの考え方を身をもって知ること为目标とする。

4. 学習の到達目標：

- ・語学教育に有用な情報通信技術の基礎についての知識を得る。
- ・情報技術に対応した新しい語学教育の方法論について知る。
- ・簡単なオンラインコンテンツの制作や活用を行うことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回 イン트로ダクション：学びの変化と情報通信技術
- 第2回 オンラインで学ぶということ ① 教材とリソースの間
- 第3回 オンラインで学ぶということ ② 検索とキュレーション
- 第4回 オンラインで学ぶということ ③ 何を使って学ぶ？：ツールとデバイス
- 第5回 オンラインで学ぶということ ④ MOOCs、反転学習と協働のあり方
- 第6回 オンラインで学ぶということ ⑤ VR：あたらしい体験
- 第7回 オフラインで学ぶということ 技術だけが問題なのか？
- 第8回 プロジェクトワーク準備 ①ブレインストーミング
- 第9回 コーパスを使ってみよう
- 第10回 カタイ話：セキュリティと倫理
- 第11回 プロジェクトワーク準備 ② 制作作業
- 第12回 プロジェクトワーク準備 ③ 制作作業
- 第13回 プロジェクトワーク準備 ④ 発表の準備
- 第14回 プロジェクトワーク発表
- 第15回 振り返り

6. 成績評価方法：

- ・課題 25%
- ・プロジェクトワーク 35%
- ・レポート 40%

7. 教科書および参考書：

- ・事前に Web サイトにて指示

8. 授業時間外学習：

- ・課題への回答 30分/日
- ・グループワーク 1時間/日

9. その他：なし

- ・受講者は、事前に以下の Web サイトを参照し、アンケートに回答すること（8月上旬オープン予定）。

<https://hu-ed2014.jimdo.com/>

科目名：日本語教育学研究演習Ⅰ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：島崎 薫（准教授）

講義コード：LM21201， 科目ナンバリング：LJS-LIN623J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語教育論研究演習Ⅰ 】

1. 授業題目：

地域日本語支援

2. Course Title (授業題目)：

Japanese Language Support in Local Communities

3. 授業の目的と概要：

地域日本語支援についての現状を理解し、各チームで設定した課題について PBL (Problem/Project Based Learning) を通じて取り組み、相互に成果を発表することによって、問題解決を試み、問題解決案を提案する。

4. 学習の到達目標：

- ・ 地域日本語支援について理解し、説明できる。
- ・ 地域日本語支援の課題を設定し、チームで協働して問題解決活動に取り組むことができる。
- ・ 設定した課題について解決案を提示することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地域日本語支援の現状（概観）
- 第3回：地域日本語支援の現状（事例）
- 第4回：仙台における地域日本語支援（成人）
- 第5回：仙台における地域日本語支援（子ども）
- 第6回：地域日本語教室の見学
- 第7回：地域日本語教室の見学での経験を共有
- 第8回：PBL（課題の設定）
- 第9回：PBL（課題の発表）
- 第10回：PBL（課題の検討）
- 第11回：PBL（中間発表）
- 第12回：PBL（課題の修正）
- 第13回：PBL（成果発表）
- 第14回：PBL（フィードバック）
- 第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

最終発表 30%、最終レポート 30%、授業への参加態度 40%

7. 教科書および参考書：

授業内で適宜配布します。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし

科目名：日本語教育学研究演習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：小河原 義朗（教授）

講義コード：LM11203， 科目ナンバリング：LJS-LIN624J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語教育論研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

第二言語習得研究

2. Course Title (授業題目)：

Second Language Acquisition Research

3. 授業の目的と概要：

日本語を教えるための理論的アプローチの一つとして第二言語習得研究を取り上げる。第二言語習得の基本的な考え方を理解し、具体的な教材や教室活動と結び付けて捉えることによって、第二言語習得理論を踏まえた授業実践について考える。

授業は、第二言語習得に関して提示された課題について次のような活動を通して進める。(1)資料をもとに課題に対する考えをまとめる。(2)担当資料を理解し、課題を解く。(3)担当資料を紹介し合い、協働して課題に対する解作りに取り組む。(4)課題に対する解を発表し合い、全体で議論する。(5)課題に対する解について改めてまとめる。

4. 学習の到達目標：

- (1)第二言語習得の基本的な考え方を理解し、説明できる。
- (2)第二言語習得研究の知見を日本語教育の具体的な授業実践と結び付けて考えることができる。
- (3)第二言語習得研究の方法論を自らの研究に活用することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 第二言語習得研究
3. 中間言語
4. 母語の影響
5. 習得順序
6. インプットとアウトプット
7. 教室における学習
8. 言語習得要因
9. バイリンガル教育
10. 第二言語習得研究と日本語教育
11. 第二言語習得研究の方法
12. 文献講読
13. 文献講読
14. 文献講読
15. 文献講読とまとめ

6. 成績評価方法：

レポート 30%・課題 40%・授業参加度 30%

7. 教科書および参考書：

教科書：大関浩美(2010)『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版

8. 授業時間外学習：

提示される課題に取り組むために、個別、または協働して次回授業のための準備を行う。

9. その他：なし

3 回以上欠席した場合には、特別な理由がない限り単位を与えないので注意すること。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅰ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時. 前期 月曜日 4講時

学期：1 学期, 単位数：2

担当教員：島崎 薫、小河原 義朗（准教授、教授）

講義コード：LM11308, 科目ナンバリング：LJS-LIN625J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語教育論実習Ⅰ】

1. 授業題目：

プログラムをデザインする

2. Course Title (授業題目)：

Designing a Program

3. 授業の目的と概要：

この授業では、東北大学の留学生のニーズやレディネス、環境などの現状を理解し、東北大学の留学生を支援するためのプログラムをデザインする。デザインする際には、社会文化理論の考え方を応用し、社会の中で学習者が学びを深められるような学習環境をデザインする。また、このプログラムを評価する適切な方法についても考える。

4. 学習の到達目標：

- ・レディネス、ニーズ、目標設定、シラバス、カリキュラム、実践、評価等、日本語コースのコースデザインの基礎を学ぶ。
- ・社会文化理論を理解し、学習環境をデザインすることができる。
- ・プログラムを評価する適切な方法について考えることができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：社会文化理論とその実践
- 第3回：事例研究①
- 第4回：事例研究②
- 第5回：東北大生の実態分析
- 第6回：課題検討
- 第7回：プログラムデザイン
- 第8回：プログラムデザイン
- 第9回：中間発表
- 第10回：プログラムデザイン（修正）
- 第11回：最終発表
- 第12回：プログラム評価法
- 第13回：プログラム準備①

6. 成績評価方法：

授業への参加態度 70%、最終レポート 30%

7. 教科書および参考書：

適宜教員が指示をします。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし

- ・日本語教育学特論Ⅱ：日本語学習と社会を一緒に履修することが望ましい。

科目名：日本語教育学研究実習Ⅱ／ Applied Japanese Linguistics(Practice)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時. 後期 月曜日 4 講時

学期：2 学期, 単位数：2

担当教員：島崎 薫、小河原 義朗（准教授、教授）

講義コード：LM21309, 科目ナンバリング：LJS-LIN626J, 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本語教育論実習Ⅱ 】

1. 授業題目：

プログラムを運営し、評価する

2. Course Title (授業題目)：

Coordinating and Evaluating a Program

3. 授業の目的と概要：

前期にデザインしたプログラムをチームで実施し、そのプログラムを評価する。プログラムを実施する中で、日本語の授業を行うだけではなく、その他の活動のコーディネートも行い、総合的にプログラムを運営する。またプログラム評価のためのデータも集め、それをもとにプログラムの評価を行う。

4. 学習の到達目標：

- ・ 目的を達成するために日本語の授業を実施したり、活動を行ったりしてプログラムを適切に運営することができる。
- ・ 収集したデータを分析し、適切にプログラムの評価を行うことができる。
- ・ チームで協力し、担当した役割を果たしながら協働で運営することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回：プログラムの運営①
- 第2回：プログラムの運営②
- 第3回：プログラムの運営③
- 第4回：プログラムの運営④
- 第5回：プログラムの運営⑤
- 第6回：プログラムの運営⑥
- 第7回：プログラムの運営⑦
- 第8回：プログラム評価の方法①
- 第9回：プログラム評価の方法②
- 第10回：データ分析
- 第11回：データ分析の検討
- 第12回：データのまとめ
- 第13回：発表準備①
- 第14回：発表準備②
- 第15回：まとめ

6. 成績評価方法：

授業への参加態度 60%、最終レポート 30%、報告書などへの貢献 10%

7. 教科書および参考書：

適宜教員が指示をします。

8. 授業時間外学習：

授業内での作業の続きを授業外にする必要があります。

9. その他：なし